

けやき台小学校と若葉小学校の統合及び
校舎の建替えに関する説明会報告書
—ご質問・ご意見に対する教育委員会の考え—

平成 28 年 1 月
立川市教育委員会

**「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替えに関する説明会報告書
—ご質問・ご意見に対する教育委員会の考え—」について**

平素より、立川市の教育行政にご理解とご協力賜り厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 11 月に 4 回開催しました、「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替えに関する説明会」には、保護者や近隣の方など延べ 309 名の方にご出席いただき、貴重なご意見等を頂戴いたしました。

つきましては説明会の中で出された主なご意見やご質問等につきまして、現時点での教育委員会の考えをお知らせいたします。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替えに関する説明会

日時	会場	参加者	発言	意見提出
11 月 14 日（土）・10-12 時	若葉小学校	103 人	16 人	70 人
11 月 18 日（水）・19-21 時		52 人	10 人	25 人
11 月 25 日（水）・19-21 時	けやき台小学校	66 人	10 人	32 人
11 月 28 日（土）・10-12 時		88 人	15 人	50 人
計（延べ人数）		309 人	51 人	177 人

連絡先：立川市教育委員会 教育部教育総務課学校施設保全担任
〒190-8666 立川市泉町 1156-9
電 話：042-523-2111（内線：2474）
F A X：042-528-1204

目次

1. 学校統合・新校舎建設の方針と今後のスケジュールについて	3
2. 統合方針決定までの経過について	5
3. 学校統合の目的について	8
4. 若葉町の児童数推移について	10
5. 学校適正規模について	13
6. 五日市街道を渡る際の児童の安全確保について	16
7. 新校舎の建設場所について	17
8. 若葉小学校を暫定使用する平成 30 年度から 32 年度までの対応	19
9. 新校舎に複合化を予定している公共施設について	21
10. 特別支援学級について	22
11. 若葉小学校の跡地について	23
12. 統合方針への合意形成について	24
13. 今後の取り組み等について	25
14. その他	26
15. 質疑や提出用紙で寄せられたその他の意見	29

1. 学校統合・新校舎建設の方針と今後のスケジュールについて

質問 1－1 けやき台小学校と若葉小学校の統合方針はどのような内容ですか。

平成 27 年 3 月議会で請願第 1 号「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」が採択されました。今回の学校統合等に関しましては地域住民から請願という形で提案を受け、市民を代表する議会において採択されたものとなります。

教育委員会ではこの採択された請願への対応について議会へ報告することが必要であるため、請願内容や対応方針を教育委員会や総合教育会議において慎重に協議し、平成 27 年 9 月 10 日に開催しました教育委員会において下記の通り「けやき台小学校と若葉小学校の統合方針」（以下「統合方針」という。）を決定しました。

けやき台小学校と若葉小学校の統合方針（抜粋）

平成 30 年 3 月にけやき台小学校と若葉小学校を閉校した上で、平成 30 年 4 月に両校を統合し新たな学校を設立する。新校の校舎については、平成 30 年度から 32 年度までは若葉小学校を暫定的に使用する。この間、けやき台小学校を解体し新校舎を建設し、平成 33 年 4 月に建替えた校舎に移転する。

質問 1－2 学校統合と新校舎建設はどのようなスケジュールとなりますか。

統合方針に基づくスケジュールは次のとおりとなります。

区分	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
統合 建替え方針	方針 決定						
建替え マスタープラン		プラン 作成					
基本設計 実施設計			基本設計 実施設計				
地域説明会	方針 説明		マスタープラン 基本・実施設計説明				
若葉小学校へ一時 移転（新校設立）				平成 30 年 3 月にけやき台小学校 と若葉小学校を閉校し、同年 4			
仮設校舎 （不足する教室分）			仮設 建設	月に新たな学校を設立する。若 葉小学校を暫定的に使用する。			仮設 解体
けやき台小学校改修 新校舎建設	調査	改修		校舎 解体	校舎建替え工事 （2 年間）		移転

質問 1-3 両校児童への影響を具体的にお示しください。

4年生から6年生の在校生は卒業まで現在の在籍校で学びます。1年生から3年生及び来年度入学する新1年生への影響につきましては次のとおりとなります。

けやき台小学校

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
スケジュール	けやき台小学校			新たな学校（若葉小学校暫定利用）			新校舎
現3年生	3年生	4年生	5年生	6年生			
現2年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
現1年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
来年度入学		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生

若葉小学校

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
スケジュール	若葉小学校			新たな学校（若葉小学校暫定利用）			新校舎
現3年生	3年生	4年生	5年生	6年生			
現2年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
現1年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
来年度入学		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生

質問 1-4 けやき台小学校の改修はどのような内容になりますか。

「立川市公共施設保全計画」（以下「保全計画」という。）では、けやき台小学校は平成28年度に大規模改修工事を実施する予定でしたが、今回の学校統合と新校舎建設に伴い大規模改修工事は行いません。しかし、平成28年度、29年度は現在の校舎を使用しますので、老朽化により対応が必要な外壁やひさし等の改修を平成28年度に実施し、安全な教育環境の整備に努めます。

質問 1-5 統合及び建替えのスケジュールが早まることはありますか？

スケジュールについては現時点では早まる予定はありません。

質問 1-6 新校舎が出来るまで、若葉小学校の敷地内で両校を併存させる事はできませんか。

同じ敷地内で2つの学校が併存することより、両校を統合して新たな学校を設立することが子どもたちにとっては良い環境になると考えています。

2. 統合方針決定までの経過について

質問 2－1 けやき台小学校の大規模改修工事に係る設計を中止した経過は？

若葉町地域の各団体の委員で構成されます「若葉町地区学校保全計画検討委員会」から平成 26 年 8 月 4 日に「報告書」が市へ提出されました。同検討委員会は平成 26 年 2 月から準備委員会を立ち上げ、「立川市公共施設保全計画」について 5 回検討し、平成 26 年 7 月 18 日に正式な検討委員会を発足しております。

「報告書」の内容は、「本格的に今後の若葉町地区の学校施設のあり方について、住民との話し合いを始める運びとなりました。この活動にご理解いただきまして、『立川市公共施設保全計画』についてご配慮下さいますようお願い申し上げます。」というものです。

市では検討委員会から提出された「報告書」の内容を受け止め、日常的に学校を支えていただいている住民の方々の意見として、その動向を見守る必要があると総合的に判断し、けやき台小学校の大規模改修工事に係る基本設計、実施設計に関する手続きを一旦中止することとし、平成 26 年 9 月議会の文教委員会へ報告しました。

質問 2－2 「平成 27 年 3 月議会で採択された請願を提出した検討委員会のメンバーに名を連ねたが、自身の認識と異なるため名前を削除してほしい。」と発言した方がいました。このことにより瑕疵があり請願は無効と考えます。

請願第 1 号を提出した「若葉町地区学校保全計画検討委員会」に瑕疵があったとのご意見を説明会でいただきましたので、この件につきましては議会事務局へ事実関係を確認しました。

平成 27 年 1 月 30 日に「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」が提出され、法に基づく提出要件が満たされていることから、請願として有効と認め、議長が受理いたしました。その際、請願、署名簿とともに同検討委員会の名簿が参考資料として添付されており、説明会で発言があった方のお名前がその名簿に記載されていたことは事実ですが、あくまで参考資料であり提出要件には含まれておりません。以上のことから、提出された請願に瑕疵はなく、これを採択とした議会の議決も有効であるとの見解を議会事務局は示しています。

また、平成 26 年 12 月に同検討委員会が地域に配付した請願の署名用紙には検討委員会の活動報告、請願要旨、請願事項、署名用紙と請願代表者名が記載されておりますが、発言をされた方のお名前は記載されておられません。

質問 2－3 平成 27 年 3 月議会で請願が採択され 9 月に教育委員会が統合方針を決定するまでの間、保護者や地域住民の意見を聞く機会を市が設けなかった理由を教えてください。

平成 27 年 3 月の市議会において、「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」が採択された時点では市の方針は未定でした。その後教育委員会や市長と教育委員会で構成される総合教育会議において、採択された請願を踏まえ総合的な視点で慎重に検討を行い、平成 27 年 9 月 10 日の教育委員会で統合方針を決定しました。

その間、地域の方々に説明する機会を設けなかった理由としましては、請願に対する市の方針が決まっていない中で説明会等を開催しても、様々な質問に対して市の考え方をお示しすることができないことで、かえって地域の混乱を招く恐れがあると判断したためです。

質問 2－4 今年の 2 月に若葉小学校で行われた新 1 年生向けの保護者に対する説明会では、統合に関する話が出なかったのはなぜですか。

平成 27 年 3 月議会へ請願が提出され採択されました。また、教育委員会の統合方針決定は平成 27 年 9 月であったため、平成 27 年 2 月の入学前説明会では方針が決定しておりませんでした。このため学校統合に関する説明は学校からはしておりません。

質問 2－5 「若葉小学校の存続を求める陳情」署名が 7,000 筆以上となったことに対して教育委員会はどのような見解を持っていますか。

「若葉町教育問題連絡会」から「若葉小学校の存続を求める陳情」が平成 27 年 9 月議会に提出され、10 月 21 日の本会議において賛成少数により不採択となりました。

平成 27 年 3 月議会で採択された請願第 1 号「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」と今回の陳情の署名数については、署名期間や範囲が異なるため一概に比較できるものではありません。

市及び教育委員会では、市民の代表で構成された市議会で採択された請願を重く受け止め、総合的に検討し、けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替え方針等を決定しました。

なお、「若葉小学校の存続を求める陳情」につきましては、学校統合に関する意見表明の一つであると認識しています。

質問 2-6 「若葉小学校の存続を求める陳情」が不採択になりましたが、議会での審議内容を確認したいのですが。

議会での審議内容につきましては平成 27 年 9 月議会の議事録が市ホームページ上に公開されていますのでご確認ください。

質問 2-7 今回の学校統合及び建替えについて学校に通っている子どもたちの意見を聞くことはできないのでしょうか。

今回の学校統合等につきましては、教育委員会が責任を持って決めていく事項と考えています。

質問 2-8 市内には若葉小学校の他にも小規模校がありますが、若葉小学校だけを統合の対象にするのはなぜですか。

第七小学校は現在 7 学級であり小規模校です。しかし、第七小学校の学区域である錦町の児童数推計では、今後現在より児童数が増えることが予想されているため、統合ではなく隣接する学校との学区域変更が学校適正規模への適切な対応と考えています。

目的は各学校の児童数を適正規模にする事で、学校の統合はその手段の一つとなります。各学校においてどのような手段が適切であるのか今後も検討してまいります。

質問 2-9 決定した統合方針内容を説明するのではなく、改めて検討委員会を設置し学校統合について検討すべきと考えます。

「けやき台小学校と若葉小学校の統合方針」につきましては既に教育委員会で決定したものであり、改めて検討委員会を設置する考えはありません。



けやき台小学校



若葉小学校

3. 学校統合の目的について

質問 3－1 今回の学校統合と新校舎建設の目的は。

学校統合の第一の目的は、児童により良い教育環境を早期に提供することです。小規模校のデメリットを解消し、学校適正規模に向けた対応を図ることを最優先に考慮しました。

第二の目的は、新しい学校ができることによる若葉町全体の活性化です。新しい校舎における新しい教育の展開は、子育て世代の転入の契機となることが期待されるとともに、教育の拠点としての機能はもとより、文化やコミュニティの拠点としても地域にプラスになると考えます。

第三の目的は財政面となりますが、他の自治体と同様に立川市においても人口減少と少子高齢化が進むことが予想され、今後も厳しい財政状況となることが見込まれます。このような中、児童数が短期間に減少することが明らかな地域において近接する2つの学校の大規模改修を連続して実施し、その後、約25年後にまた両校を新築することは財政的にも難しい状況です。

質問 3－2 市の厳しい財政状況が今回の学校統合を進める一番の要因では。

質問 3－1 の通り、学校統合の第一の目的は、児童により良い教育環境を早期に提供することですが、その裏付けとなる財政面の検討も行っています。

今回の学校統合に関しては大規模改修を両校で実施した後に校舎を建替えた場合と2校を統合し新たな校舎を建設する場合の費用比較を行っていますが、後者の方が比較的少ない費用で新しい教育の展開が可能となります。

条件	概算費用
2校を統合し新たな校舎を建設する場合	約40億円
大規模改修を両校で実施した後の約25年後に建替える場合	約109億円

*建替え費用は平成26年度に建替えが完了した第一小学校の事例を、大規模改修費用は「保全計画」に計上されている費用を参考とし、建替え費用を約40億円、大規模改修費用を約14億5千万円と試算しています。

質問 3-3 統合および学校建替えの方針決定について、市は財政状況の悪化を主な理由にしていると感じ、子どもたちのことを考えているのかが疑問です。

今回の統合方針等につきましては、将来的な人口減少社会における少子化の中で、子どもたちの教育環境の向上を第一に考え決定しました。

質問 3-4 今後も議会で請願が採択された場合は今回と同様に学校統合を進めるのでしょうか。

平成 25 年 3 月に教育委員会で決定した「立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方」では、小規模校となった場合は適切な対策を講じることとしており、今回決定しました「けやき台小学校と若葉小学校の統合方針」につきましては、この教育委員会の考え方を踏まえたものであり、児童の教育条件や環境改善に結びつくものと考えております。

今後も議会で採択された請願につきましては尊重してまいります。請願内容が教育委員会の定めている考えや方針等と整合が図られているかを慎重に見極め、市長部局とも調整の上、対応については個々の事案ごとに総合的に判断します。

質問 3-5 学校統合により地域が寂れることが心配です。

平成 27 年の立川市全体の高齢化率は約 23% ですが若葉町の高齢化率は約 30% となっており、市内 16 町の中で最も高齢化が進んでいる地域です。

まちづくりの観点からも新しい校舎による新たな教育は、子育て世代の転入の契機となることが期待されるとともに、教育の拠点としての機能はもとより文化やコミュニティの拠点としても地域にプラスになると考えます。

質問 3-6 児童数減少対策として若葉町団地を再生する等、市として若葉町に子育て世代を誘致する考えはありませんか。

若葉町団地はUR都市機構の賃貸住宅であるため、市が改修・再生することはありません。魅力のあるまちづくりについては、新しい校舎による新たな教育は子育て世代に若葉町の魅力をアピールする重要な契機になると考えられます。

なお、平成 26 年度に建替えた第一小学校は平成 27 年度の新入生が増加しています。

4. 若葉町の児童数推移について

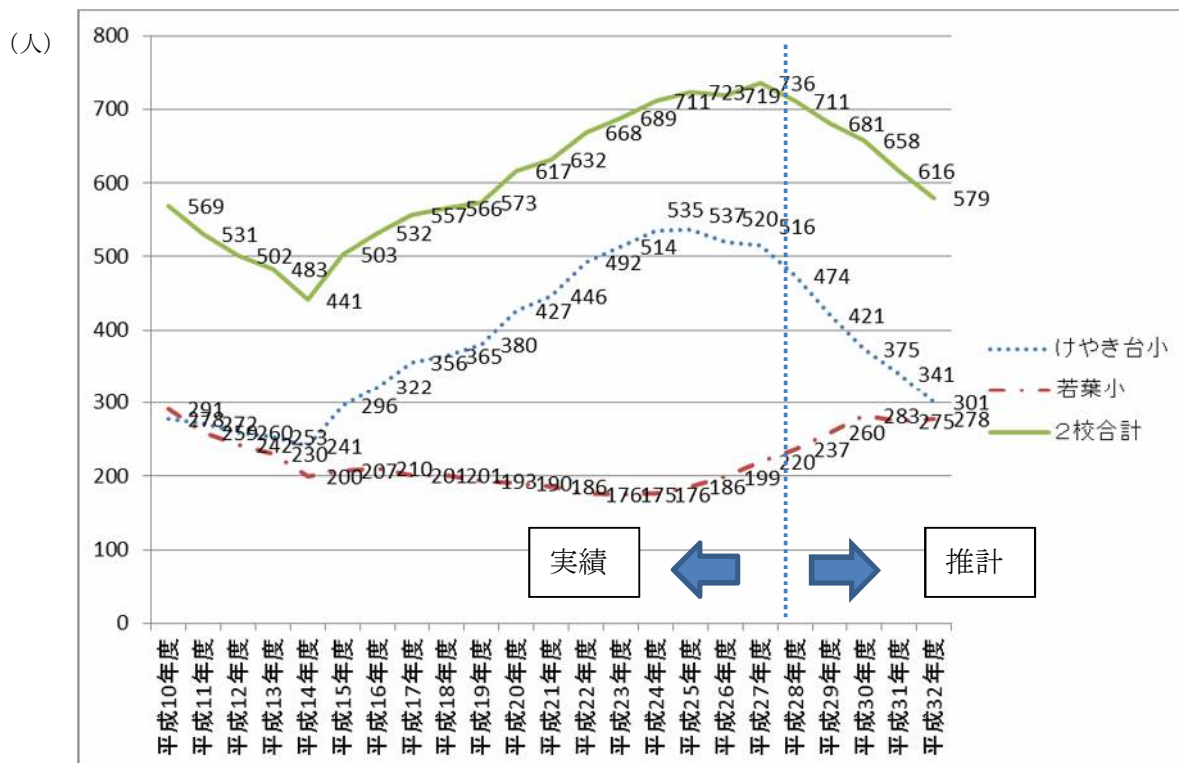
質問 4－1 今後の両校の児童数の推計はどうなっているのでしょうか。

平成 27 年 5 月 1 日現在の若葉小学校の通常学級に通う児童数は 220 人ですが、5 年後の平成 32 年度には現在より 58 人増加し 278 人になる推計となっています。

また、けやき台小学校は現在 516 人が通っておりますが、平成 32 年度には現在より 215 人減少し 301 人になる推計となり、平成 32 年度では両校合わせた若葉町全体の児童数は現在より 157 人減少し、579 人になると推計しています。

「立川市第 4 次長期総合計画」策定のため、平成 25 年度に実施した将来人口調査では、平成 35 年には若葉町全体で小学校に通う年齢である 7 歳から 12 歳の人口が 480 人まで減少し、以後平成 55 年まで同水準で推移する推計となっており、このまま 2 校を存続した場合は両校ともに小規模校となることが予想され、学校規模適正化に向けた適切な対策を講じることが必要となります。

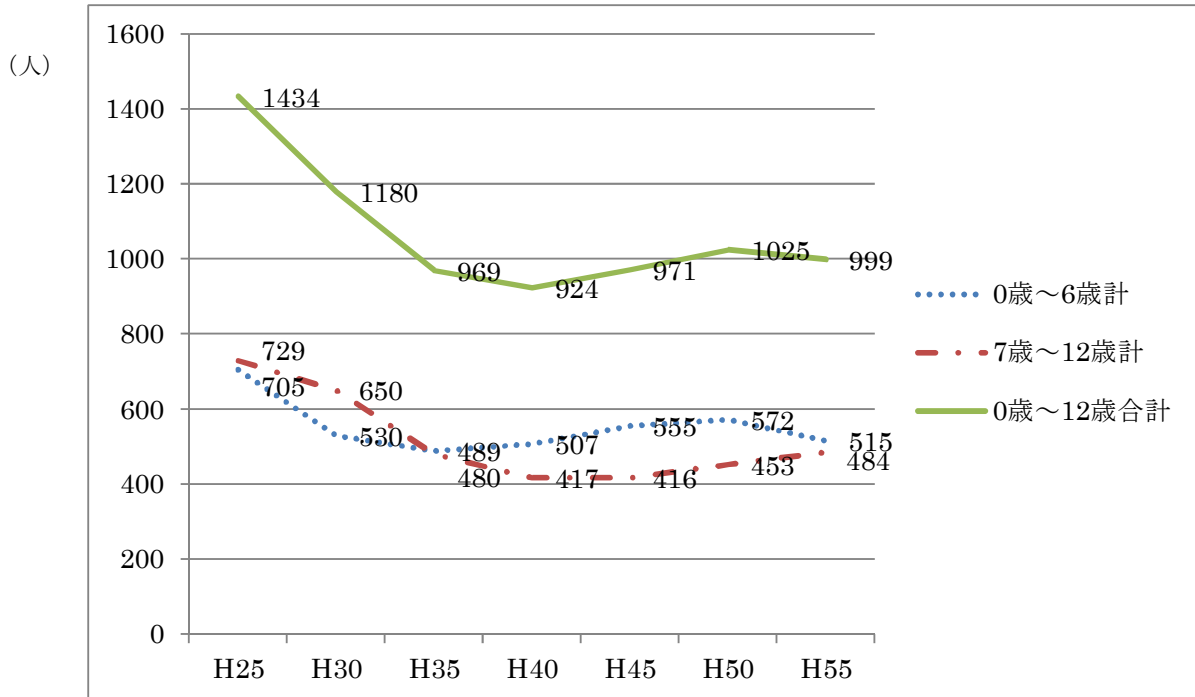
けやき台小学校と若葉小学校の児童数（平成 10 年度～平成 32 年度）



*現在の若葉町の年齢別人口より推計しているため、平成 32 年度までの推計値となり、私学に進学する児童など就学率による補正はしていません。

*若葉小学校の児童数は平成 32 年度にかけて増加傾向となりますが、けやき台小学校及び両校を合わせた児童数は減少傾向となります。

若葉町全体の年少者人口推計（平成 25 年度～平成 55 年度）



＊「立川市第4次長期総合計画」策定のため平成25年度に実施した将来人口推計調査（コーホート要因法による）による人口推計となります。

＊若葉町の7歳から12歳の人口は平成35年には480人（15～16学級）まで減少する推計となっています。この数字は両校合わせた児童数が現在のけやき台小学校の児童数（516人）より下回ることを示しています。生産緑地が宅地転用された場合、一時的に年少人口が増加する可能性もありますが、全体的な人口減少の流れを変える要因にはならないと考えられます。

質問4－2 児童推計は正しいものなのでしょうか。

児童数の推計に関しましては、その地域の出産可能年齢の女性人口の推移が大きな要因となります。平成16年における若葉町の20歳から39歳までの女性人口は1,830人でしたが、平成27年度は1,198人となり632人減少しています。

このことから若葉町の児童数が減少する推計となっています。推計値に多少の誤差があっても、児童数の減少傾向は避けられない状況です。

＊出産可能年齢とは合計特殊出生率を算出する際に用いられる用語で、15歳から49歳までの年齢となります。

質問 4－3 けやき台小学校の児童は減少していくのに対して若葉小学校の児童数は平成 26 年度から 32 年度にかけて増加しますが、どのような理由からでしょうか。

平成 32 年度までの児童数の推移は、現在の若葉小学校の児童数や若葉小学校の学区内に居住している未就学児童数を元にした推計であり、この地域の幼児が個別要因で一時的に増加したことが背景にあると考えられます。

質問 4－4 平成 16 年度に設立した新生小学校は、統合後学区域に大型マンションが建設され、児童数が増加しました。今回の統合方針の根拠の一つである若葉町の児童数減少の推計資料についてもマンション建設等の影響を受け、若葉小学校の児童数が適正規模となる可能性があるのではないのでしょうか。

大型マンションが建設された富士見町地域と若葉町では都市計画上の用途が異なるため、若葉町内で同規模のマンションが建設される可能性は低いと考えています。

なお、ご質問で出された新生小学校の児童数については、大型マンション建設により一時的に児童数が増加しましたが、現在は 470 人（16 学級）となり適正規模校となっています。

質問 4－5 統合方針の説明では将来の人口減少が前提となっていますが、人口減少問題に関しては国が対応策を進めているため、条件の見直しをする必要があるのではないのでしょうか。

人口減少問題につきましては政府による取り組みが進められていますが、人口問題は即効性がある対策が困難であるため、将来人口の推計予測を現時点では変えることは考えておりません。

5. 学校適正規模について

質問 5－1 学校適正規模だけで学校統合はしないでもらいたいです。

学校の適正規模につきましては、平成 25 年 3 月に「立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方」を立川市教育委員会で定めました。

適正規模につきましては、子どもの幸せを第一に考え、①一人ひとりの子どもを大切に、②子どもの視点を重視し、③どの子どもにも安心して平等な教育を提供することが基本的な考え方となります。学校適正規模の確保は、子どもの教育環境の改善のために行うもので、その手段のひとつが学校統合となります。

今回の学校統合につきましても、この考えに基づき子どもを第一に考え、若葉町の将来も見据え教育環境を整備するために行うものです。

質問 5－2 小規模校であっても若葉小学校を存続させるべきと考えます。

小規模校では、「一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。」、「児童の人間関係が深まる。」、「学校が一体となりやすい。」といったメリットがある反面、「多様な人間関係による児童同士の切磋琢磨する機会が少なく、活気が低下しやすい。」、「単学級では学年進行にともなうクラス替えが出来ず人間関係が固定化しがちになり、授業や学校行事等におけるグループ編成などが限定される傾向が高くなる。」、「運動会や学芸会など、集団での活動に制約が生じ、集団による多様な活動が困難になりがちである。」、「教職員の経験年数や特性など望ましいバランスのとれた教職員配置ができない。」などのデメリットが考えられます。

立川市では小規模校となった場合には教育的観点からメリットよりもデメリットの方が大きいと考え、適切な対策を講じることを「立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方」で定めており、今回の統合については、その考え方にに基づき総合的に検討し方針を決定したものです。



運動会で頑張る児童の元気な様子（左は第九小学校、右は第一小学校）

質問 5－3 地方の山村地域では全校児童数が 10 数名程度の小規模校が統合されずに存続しています。今回の学校統合を進める必要性があるのでしょうか。

地方の山村地域の学校は学校を統合した場合、近隣に通学出来る学校施設がなくなってしまうという事情があるため、立川市とは状況が異なります。

質問 5－4 適正規模校のメリットについて教えてください。

若葉小学校とけやき台小学校が統合した場合、大規模校ではなく適正規模校となりますが、適正規模校のメリットについては、教員数が増えるため年齢幅の広い多くの教員の目で児童を見ることが出来ることや運動会やクラブ活動などが充実すること、クラス数が増えるため万が一、クラス内でいじめが起こった場合でも、進級時のクラス替えによる救済措置の対応が可能となるといった点があげられます。

また、統合により複数学級編成が可能になることにより、学級を越えて授業を実施することや多様な学習集団による学びが実現し、話し合いや学び合いが深まるなど学力向上の面でもプラスアルファの効果が期待できると考えています。

質問 5－5 学校が統合すると児童数が多くなり、子どもたち一人ひとりに教員の目が届きにくくなるため、小規模校のほうが質の高い学習ができるのではないのでしょうか。

若葉小学校とけやき台小学校が統合した場合、児童数と学級数が増えて指導する教員の人数も増えることとなります。そのためより多くの教員の目で子どもたちを見ることができ、問題に対して複数の教員でより組織的に対応することが可能となります。

また習熟度別の少人数指導においても、学級を越えて学習集団を編成することが可能となり、より質の高い授業を展開することができ、子どもの学びの広がりや深まりが期待できます。

質問 5－6 学校規模について小規模校のほうが世界的な傾向となっていると思います。

小規模校が世界的な傾向ということではなく、少人数学級による学習環境が現在の教育の流れの一つとなっています。両校が統合した場合には児童数も増え、教室数も確保できるため学習内容に応じて少人数指導を含め、多様な学習集団を編成することが可能となります。

質問 5－7 両校はともに良い学校なので廃校にすべきでないと考えます。

両校を評価していただくことは教育委員会としてもうれしく思います。今後は、両校の良い点を引き継いだ上で、学校統合後は地域の未来につながるよう、さらに良い学校になるように取り組んでまいります。

質問 5－8 けやき台小学校と若葉小学校が統合した場合、同じ学校の児童がそのまま第九中学校に進学します。中学校入学時に新たな出会いがなくなってしまう。

中学校入学時に新たな出会いはありませんが、学校統合により児童数が増えることは、小学校での人間関係の幅が広がることにつながり、子どもたちにとって大きなメリットとなります。

また、小学校 6 年間と中学校 3 年間の学びの連続性を重視した、小中一貫教育への展開も将来的には可能となるメリットも考えられます。

質問 5－9 学校統合により学区内は小学校 1 校、中学校 1 校となりますがどのようなメリットがありますか。また、立川市内で同様の学区はありますか。

立川市内では新生小学校と第八中学校が学区内に小学校 1 校、中学校 1 校の設置となっています。メリットとしましては小中学校の教職員や子どもの交流や学習指導及び生活指導を共通の方針の下に行うことにより、義務教育 9 年間の見通しを持った教育活動を推進することにつながります。

また小中学校間の情報交換などが頻繁に行われることで小中学校間の円滑な接続が期待でき、中学校入学時の環境の変化に起因するいわゆる「中一ギャップ」に対してもきめ細やかで適切な対応ができるなどのメリットがあります。

質問 5－10 いじめ防止の観点から小規模校のほうが良いのではないのでしょうか。

いじめはどこの学校でも起こりうる問題で、児童数や学校規模の大小に因るものではないと考えています。適正規模校であれば万が一、クラス内でいじめが起こった場合でも、進級時のクラス替えによる救済措置を取ることが可能となります。

いじめ問題につきましては教育委員会と学校が連携し、すべての学校において今後も適切に対応してまいります。

6. 五日市街道を渡る際の児童の安全確保について

質問 6－1 登下校時に児童が五日市街道を横断することになるため、交通事故に遭わないか心配です。

立川市は必ずしも幹線道路で学区域を分けていませんので、第九小学校、第十小学校、松中小学校、西砂小学校の4校は五日市街道を横断して児童が通学しています。そのうち西砂小学校は約300人の児童が五日市街道を横断して通学しています。

けやき台小学校と若葉小学校を統合した場合、登下校の際に児童が五日市街道を横断することになりますが、児童が交通事故に巻き込まれない対策を講じることは重要であり、今まで以上に地域、保護者、シルバー人材センター会員の皆様と教育委員会が連携した取り組みを行ってまいります。

教育委員会としても通学路の安全確保は重要な課題として認識していますが、幹線道路を横断することのみをもって統合が認められないとは考えていません。

質問 6－2 両校が統合した場合、通学路の道路拡幅やスクールゾーンの変更はありますか。また、自動車の速度規制や歩行者と車輛を分離する歩道設置などの検討が必要だと思います。

市内全域で通学路の安全点検の実施と、地域の方々やシルバー人材センター会員の皆様による通学路の見守りを行っていますが、今後も実施可能な安全対策を検討してまいります。

車輛の交通規制につきましては、地元の住民の皆様のご理解とご協力、交通への影響、警察の許可が必要であり、現在も市内の小中学校の各校区にスクールゾーン等が設置されています。けやき台小と若葉小が統合した場合の通学路の安全確保につきましては、警察との協議を含め今後も検討を行ってまいります。

質問 6－3 学校統合後は五日市街道を横断することになりますが、自動車の排気ガスに対してアレルギーを持っている子どもたちへの対応はどのようなになっているのでしょうか。

アレルギーを持つ児童の対応につきまして、入学前に各ご家庭に配布している資料の中に、お子様の健康に関する記入用紙が同封されており、この用紙にお子様の健康状況を記入して提出いただきます。

アレルギーにつきましては一人ひとりの違いや発達段階による変化もあり、学校と教育委員会が入学後の対応について個別の対応を検討します。

7. 新校舎の建設場所について

質問 7-1 けやき台小学校の敷地に校舎を建替える方針にした理由は。

けやき台小学校の敷地面積は 15,977 m²、若葉小学校の敷地面積は 16,441 m²となり、いずれも市内小学校の平均敷地面積 14,647 m²を上回る広さとなります。

都市計画上の用途地域、建ぺい率、容積率、防火地区、高度規制等については、両校ともほぼ同様の内容となりますが、若葉町全体での通学距離を考えた場合に、けやき台小学校では最長 1.5 km、若葉小学校では最長 2.0 kmとなります。

このことから、児童の通学に対する負担を考慮し、けやき台小学校の敷地に建替えることを方針としました。

なお、校庭面積を広くするため、新校舎は4階建て校舎の検討も必要となりますが、日影規制においてもけやき台小学校の北側は住宅が少なく、規制による影響は若葉小学校より小さくなるものと考えています。

質問 7-2 現在の若葉小学校は4階建ての校舎であり日影規制に問題はないのでしょうか。

現在の若葉小学校の校舎が建設された当時とは異なり、若葉小学校敷地北側に現に位置する住宅への日陰の影響を考慮する必要があるため、同規模の校庭を確保しながらの4階建て校舎を建築することは困難となります。

質問 7-3 学校統合により児童数が増えますが新校舎を建設する現在のけやき台小学校の校庭は手狭になりませんか。

新校舎を建設する際は、校舎の配置や4階建て校舎を検討するなどして学校敷地の有効活用を図り、具体的な計画の中で校庭面積が広くとれるよう検討します。

質問 7-4 けやき台小学校の敷地の一部が国分寺市になっていますが課題はありますか。

けやき台小学校の敷地の一部は国分寺市の行政区域となっています。地方自治法第244条の3に、公の施設の区域外設置に係る規定がありますが、行政事例では「公の施設がその設けられる市町村の住民との間に使用関係を生じる場合にのみ協議を要する。」とされております。

昭和41年にけやき台小学校が開校しましたが、その際は国分寺市と協議は行っておりません。

今後、新校舎について具体的な検討を始めますが、国分寺市民も使用する学校施設以外の施設を複合化する場合は別途協議が必要となる可能性があります。

なお、けやき台小学校の敷地のうち 163.66 m²は国有地となり、年額約 11 万円の賃貸料を国に支払っています。国有地以外の敷地は立川市が保有しています。

質問 7-5 けやき台小学校の南側が国分寺崖線となっていますが安全上問題はありますか。

けやき台小学校の敷地の一部が国分寺崖線にかかっており、この部分は盛土がされています。新校舎につきましては、けやき台小学校の敷地に建設することを方針としており、新校舎建設の際は、建設前に地盤調査を実施し、安全性を確認し適切な対応を図った上で建設します。

質問 7-6 けやき台小学校敷地に統合した小学校の新校舎を建設するのではなく、第九中学校の敷地に小中一貫校を作る計画はありませんか。

第九中学校に小中一貫校を建設する場合は現在の敷地面積では不足するため、市としてそのような計画はありません。



けやき台小学校の校庭

8. 若葉小学校を暫定使用する平成 30 年度から 32 年度までの対応

質問 8－1 新しい校舎が建築されている間、けやき台小学校の児童は若葉小学校に通うことになりますが学童保育所はどうなるのですか。

若葉町地域には「けやき台学童保育所」と「けやき台第二学童保育所」、若葉児童館に併設の「若葉学童保育所」の合計 3 か所の学童保育所を設置し、ご利用いただいています。

平成 29 年度までは現在の学童保育所をご利用いただけます。平成 30 年度から 32 年度まではけやき台小学校校舎の解体及び新校舎を建設し、また両校を統合した新校舎使用後の学童保育所につきましては、今後保護者の方のご意見を参考として、保護者の就労や児童の放課後の生活に支障がないよう、主管課である子ども育成課と調整してまいります。



けやき台学童保育所

質問 8－2 両校が統合後、新しい校舎が出来るまでの期間若葉小学校を使用することになりますが、両校の児童が学習出来る十分なスペースがあるのでしょうか。

現在の若葉小学校には使用可能な余裕教室が 6 教室分あります。不足分につきましては、校庭への影響を最小限に抑えて校庭内に仮設校舎を建設して対応します。

質問 8－3 けやき台小学校の敷地に仮設校舎をつくれませんか。

建替え工事を実施した第一小学校では校庭内に仮設校舎を建設し、工事期間中使用しましたが、体育館や校庭が利用できないため、体育の授業等は代替施設を利用するなど課題がありました。

また、工事を進める上でも、校庭内に仮設校舎があると様々な制約が生じますので、若葉小学校を暫定的に使用することとしました。

質問 8－4 平成 30 年 4 月から 3 年間使用する仮設校舎の教育環境はどのようなになりますか。

若葉小学校の校庭内に建設する仮設校舎は、教室に個別空調が整備されるなど快適な教育環境が整備されたものとなります。これまでも建替えた第一小学校や大規模改修を実施した第九小学校では工事期間中は仮設校舎を使用しましたが、施設面で問題は生じていません。



平成 27 年度に大規模改修を実施している第六小学校
の校庭内に建設した仮設校舎

9. 新校舎に複合化を予定している公共施設について

質問9－1 新しく建設される校舎に学童保育所は併設されますか。併設した場合、校庭がより狭くなってしまうことはないのでしょうか。

現時点では施設の複合化は未検討ですが、学童保育所の併設は検討していきたいと考えています。また併設した場合であっても校庭が狭くならないように具体的な計画の中で検討します。

質問9－2 若葉学童保育所を利用している児童の場合、新校舎が建設されるけやき台小学校では今までよりも距離が遠くなってしまうため、子どもが通うには負担が大きいと考えています。

今後保護者の方のご意見を参考として「新校舎建設マスタープラン」の中で、学童保育所の課題についても検討を行いたいと考えています。

質問9－3 新校舎も第一小学校のような複合施設を作る計画はありますか。市が策定した「立川市公共施設あり方方針」では複合化による公共施設削減が盛り込まれています。

学童保育所との複合化については、放課後も学校内で児童を見守ることができ、移動の際の不安がなくなるため検討していきたいと考えています。その他の公共施設の複合化については、現時点において未検討です。

いずれにしても、今回は学校の建替えであり、学校施設の充実を最優先に考えてまいります。



第一小学校は柴崎図書館、柴崎学習館、柴崎学童保育所を複合化しました。

10. 特別支援学級について

質問 10－1 「きこえとことばの教室」に児童を通わせていますが、今後どうなるでしょうか。

けやき台小学校の難聴と言語障害を対象とする通級指導学級「きこえとことばの教室」につきましては、けやき台小学校と若葉小学校の統合を検討する上で課題となっていました。通学区域内の学校への移設を教育委員会で協議した結果、交通の便（モノレール、バス）が良く、指導・支援に必要な教室等が確保できる第八小学校に移設することに決定しました。平成 28 年度に実施する第八小学校の大規模改修工事に合わせて必要な整備を行い、平成 30 年度にけやき台小学校から第八小学校に移設します。

今後保護者等に説明し、移設や児童の適応がスムーズにいくよう取り組んでまいります。

質問 10－2 「たんぽぽ学級」に児童を通わせていますが、今後どうなるでしょうか。

若葉小学校の知的障害学級「たんぽぽ学級」につきましては、平成 32 年度まで現在の若葉小学校の校舎で授業を行い、平成 33 年度にけやき台小学校敷地に建設する新校舎へ移設します。

今後保護者等に説明し、移設や児童の適応がスムーズにいくよう取り組んでまいります。



平成 30 年度に「きこえとことばの教室」を移設する第八小学校。
平成 28 年度に大規模改修工事を実施し、必要な整備を行います。

11. 若葉小学校の跡地について

質問 11－1 若葉小学校の跡地はどうなるのでしょうか。

統合した新校は平成 30 年度から 32 年度までの 3 年間は若葉小学校を暫定的に使用し、その間けやき台小学校の敷地で校舎を建替えるスケジュールとなっています。

平成 33 年度以降、若葉小学校の跡地をどのように活用するかは現在未検討であり、決定している事項はありません。

今後、地域の皆様のご意見を伺いながら跡地活用策について別途検討してまいります。

質問 11－2 若葉小学校は災害時の一次避難所ですが、避難所がなくなるのでしょうか。

「立川市地域防災計画」において災害時に使用する避難所等を指定していますが、若葉小学校は他の小中学校同様、一次避難所に指定されています。

現在、一次避難所を変更する予定はありません。

質問 11－3 若葉小学校跡地に福祉施設が建設されると聞きました。

跡地活用策については未検討であり、そのような事実はありません。

質問 11－4 若葉小学校跡地は貸出か売却すると市は考えているのではないのでしょうか。

若葉小学校の跡地をどのように活用するかは現在未検討であり、決定している事項はありません。今後、地域の皆様のご意見を伺いながら跡地活用策について検討します。



若葉小学校の校庭

12. 統合方針への合意形成について

質問 12－1 統合方針に対する住民の合意形成がなされていないと考えます。

今回決定した統合方針については、市議会で採択された請願第1号の要旨に沿った内容となっており、「立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方」においても小規模校となった場合は適切な対策を講じることとしており、児童の教育条件や環境改善に役立つものと考えております。

住民説明会の際は統合方針決定の根拠となるデータや教育委員会の考え方を説明しました。今後も両校の保護者を対象とした説明会等を開催し、引き続き統合方針にご理解をいただけるよう努めてまいります。

質問 12－2 この問題で地域が分断されることが心配です。

平成27年9月議会に「若葉小学校の存続を求める陳情」が若葉町教育問題連絡会から提出されました。陳情内容については平成27年3月議会で採択された請願第1号「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」と異なるものであり、けやき台小学校と若葉小学校の統合に関しては、様々な意見が若葉町地域にあると認識しています。

平成27年11月に開催した保護者、地域住民の方を対象とした説明会では、統合方針決定の根拠となるデータや教育委員会の考え方を丁寧に説明しました。また、今後も両校の保護者を対象とした説明会等を開催し、統合方針にご理解をいただけるよう努めてまいります。

説明会においても様々な意見が出ておりますが、いずれも子どもたちにより良い教育環境を提供することに対しては同じ思いであると考えています。この思いのもとで若葉町の未来につながる教育環境の整備に向けて協議が進むよう今後も努めてまいります。

質問 12－3 この件に関して住民投票を実施すべきと考えます。

学校統合等につきましては、議会で採択された請願を重く受け止め、請願内容が実施可能かどうかについて教育委員会や総合教育会議において慎重に協議し統合方針を決定しており、改めて住民投票を実施する考えはありません。

様々なご意見があるとは思いますが、子どもたちのことを第一に考えて教育委員会の統合方針を決定しております。また子どもたちの教育環境を考えた場合、計画を先延ばしすることは子どもたちに様々な悪影響をもたらすことになると考えています。

13. 今後の取り組み等について

質問 13－1 けやき台小学校と若葉小学校の保護者を対象とした説明会を開催していただきたいのですが。

学校統合に関して最も関心が高いのは子どもの保護者であり、11月の説明会でも聞くことができなかった内容等を知る機会を設けてほしいとの要望が説明会において多数出ておりますので、平成28年1月下旬に保護者向け説明会を両校で開催します。

質問 13－2 学校統合に向けて今後若葉小学校とけやき台小学校の児童や先生に対してどのような取り組みをしていくのでしょうか。

今年度より、本市では中学校区を単位として小中連携や校区内小学校間の連携を強める取り組みを展開しており、若葉町地域においてもすでに両校が合同で学習活動や行事を実施するなど小学校間の連携を進めております。平成28年度以降もこれらの取り組みを計画的に実施し平成30年度の統合で両校の子どもたちが不安を感じることもないよう教育活動を進めてまいります。

14. その他

質問 14－1 10 数年前に第四中学校と第九中学校を統合させる計画がありましたが、再度計画されることはありますか？

現時点では第四中学校と第九中学校を統合する計画はありません。

質問 14－2 他の学区域から通学していますが統合した場合どのようになりますか。

今後も現在の制度を維持していくよう検討してまいります。

質問 14－3 説明された市の将来的な財政状況を踏まえ、配布された資料に掲載されている「保全計画」の建替スケジュールをみると、将来的にはこの計画内容では実現できないのではないのでしょうか。

「保全計画」の将来スケジュールにつきましては、現在市が保有している全ての公共施設を将来においても存在させることを前提とした上でのシミュレーションとなります。「保全計画」自体は 40 年間の計画期間となりますが、実施にあたっては 5 年を目途に計画を見直すこととしております。

なお「保全計画」では、けやき台小学校は平成 28 年度に大規模改修を、平成 52 年度～54 年度に建替えを予定しております。また、若葉小学校は平成 32 年度に大規模改修を、平成 55 年度～56 年度で建替えを予定しております。

しかし、平成 26 年度に策定した「立川市公共施設あり方方針」では、「保全計画」通りに実施することは財政上、不可能な状況であると分析しています。

質問 14－4 両校が統合した場合、校名や校歌はどうなりますか。

平成 30 年 3 月に両校を閉校し、平成 30 年 4 月に統合して新たな学校を設立しますので、その時点で新たな校名となります。校名につきましては多くの方からご意見を伺いながら検討してまいります。

校歌につきましても校名と同様に新しく作る予定です。

質問 14－5 説明会では議事録作成のための録音をしていないとのことですが、問題ではないのでしょうか。

録音はしていませんが、説明会の発言等については複数の市職員によって記録をとっており問題はないと考えています。

質問 14－6 今回の説明会の中で市の財政状況が厳しい旨の説明がありましたが、立川市の歳入歳出状況を見ると歳入が歳出を上回っており、積立金も多いため財政状況は良いのではないのでしょうか。

ご指摘のとおり、市の歳入歳出状況を見ると歳入が歳出を上回っていますが、歳入には市債（借金）が含まれています。また積立金につきましても、財政調整基金は約 70 億円、公共施設整備基金が約 50 億円となっていますが、持続可能な財政運営を行うために行政経営計画で示した目標額とはなっていません。

立川市全体の 3 層別人口構成は、平成 27 年 4 月 1 日現在、年少人口（15 歳未満）が 12.5%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）が 64.4%、高齢者人口（65 歳以上）が 23.2% ですが、人口推計によると平成 55 年には、年少人口（15 歳未満）が 10%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）が 55%に減少しますが、高齢者人口（65 歳以上）が 35%に増加します。

生産年齢人口が 9.4%減少し、高齢者人口が 11.8%増加すると、税収（歳入）が減り、介護や医療など福祉に関する歳出が増えることから、厳しい財政状況になることが予想されます。

立川市全体の 3 層別人口構成推移（平成 12 年～平成 55 年）



質問 14－7 けやき台小学校の解体と新校舎建設の期間の災害時の一次避難所はどうなりますか。

平成 30 年度から 32 年度までの 3 年間は、現在のけやき台小学校を災害時の一次避難所として使用することができません。今後、この期間の避難所の取扱いについては防災課と協議してまいります。

質問 14－8 けやき台小学校の校庭や体育館を利用していますが、解体と新校舎建設の期間の利用はどうなりますか。

平成 30 年度から 32 年度までの 3 年間は、けやき台小学校の校庭や体育館は使用できません。工事期間中は近隣の小学校の校庭や体育館の空き状況を情報提供させていただきます。

15. 質疑や提出用紙で寄せられたその他の意見

平成 27 年 11 月に 4 回開催いたしました説明会で寄せられたその他の意見は次のとおりとなります。

なお、主旨や内容が同一の意見につきましては、ひとつの意見として掲載しています。また、一枚の用紙に複数の意見が記載されている場合は、内容ごとに掲載しています。

1) 学校統合賛成の立場の意見

番号	内容
1	子どもの数が減っている現状において小学校の統合・合併に賛成です。ただし、五日市街道を横断する際の児童の安全確保など児童の安全を第一に進めてほしい。
2	少子化が進んでいるので、統合はやむを得ない。統合計画を進め、税金の無駄使いをしないようお願いします。
3	財政状況、将来の児童推計などを考えれば小学校の統合は極めて妥当であると思います。
4	登下校で五日市街道を渡るのが危険なので学校統合に反対という意見があるようだが、現在も若葉小学校の学区の児童が越境入学により五日市街道を渡って、けやき台小学校に通っているので特に問題はないと思う。
5	子どもたちにとって小規模校は運動会などの行事も盛り上がり、人間関係を考えても良くないと思う。児童のことを第一に考えれば学校を統合し新校舎になるのは良いことばかりのはずなのに、反対する方がいるのが不思議です。
6	これから小学校に入学する児童を持つ保護者や、在校生の保護者のほとんどは統合し新校舎が早くできることを望んでいます。ごくわずかな声の大きい反対派の意見に流されず、子どもたちのため良い学校をつくってください。
7	方針の説明を聞き、よく理解できました。もともとこんな近くに 2 つの小学校があることが不自然だと思います。反対意見の方がルールを守らず不快だった。
8	学校統合を進め、けやき台小学校と若葉小学校の児童がともに明るい学校生活が送れるような立派な校舎を建ててください。
9	方針に賛成です。ただし統合した場合も少人数学級は推進してほしい。
10	市議会において学校統合の請願が採択されたのだから、市民の合意がされたと考えてよいのではないかな。

11	新しく建替えた第一小学校の良い点、悪い点を把握したうえで、さらに魅力ある小学校を建設してほしい。
12	新しい校舎は流行に左右されず、使いやすさを第一に考えてほしい。
13	統合については仕方がないと思っている。ただ保護者などの当事者に正しい情報が届くよう工夫してほしい。地域にはうわさ話が飛び交い、せっかく説明会に来ても騒々しく説明をしっかりと聞ける環境でないことが残念です。地域説明会とは別に保護者対象の説明会を開催するなどの対応をお願いしたい。
14	若葉小学校の跡地の活用は、地域の住民の要望を聞いて反映してほしい。子どもと高齢者が触れ合う場所や、運動場、老人ホーム等の建設を検討してほしい。
15	仮校舎として若葉小学校を利用している期間は、両校を存続した形で新学校に向けPTA運営等を検討する準備期間とし、新校舎が出来上がった際に新学校にした方がスムーズである。
16	ヒステリックに反対する方がいるのに驚きました。説明も聞かずに「とにかく反対」という姿勢は良くない。私たちは高齢化していくわけですから先の人々のことを考えるべきです。将来のため統合を進めてください。
17	子どもを持つ若い人たちの大半は、次の世代を担う子どもたちのために良い学校を作ってほしいと願っているのに、何故こんなに反対意見を発言するのか理解できません。
18	怒号の飛び交わない冷静な話し合いの場を設けてほしい。反対派がすごくて話も聞けず発言もしづらい。大人として発言時間などルールを守ってほしい。保護者対象とした説明会を開催してほしい。
19	方針に賛成です。賛成の意見が言えない雰囲気を知りたいです。が、無理だと思いました。反対の方はきちんとルールを守って3分以内で発言してほしい。
20	新校舎に他の公共施設を複合化する予定があるならば、早めに情報を流してほしい。
21	説明会では統合後の教育の中身などの説明がほしい。今後の少子化の中で小中一貫校の検討が必要である。
22	仮校舎として若葉小学校を利用している期間が3年間あるので、プレハブ校舎等の設置で校庭が狭くならないようにしてほしい。運動会や体育授業に支障がないようにしてほしい。
23	統合によりクラス替えができるようになるのは望ましい。
24	反対の立場の方は、中身のない意見等ばかりを発言するだけで子どもたちのことを考えていない。ただ反対したいだけではないか。

25	若葉小学校で行っている持久走大会や若葉祭などの行事は統合後も継続してほしい。
26	現在のけやき台小学校の校庭は広くないため、建替えの際は少しでも広くなるよう検討してほしい。
27	建替え場所は若葉小学校の敷地がよい。けやき台小学校の近くには大型商業施設があり車の交通量が多く危険である。
28	建替えに合わせて、隣接の学童保育所を学校内に併設してほしい。
29	けやき台小では老朽化が進んでいる事を実感している。耐用年数を 20 年程度延長させる改修工事では学校を建替えた場合と比較して費用対効果において劣る面が多いと考えています。
30	けやき台小も若葉小もととてもよい小学校である。しかし、どちらの学校も老朽化が進み、改修だけで全ての危険性を除去出来るのかは疑問がある。将来の人口構成の変化による財政事情の悪化も考え合わせると、2つの学校を統合して新しい学校に建替えるべきだと考える。
31	市の財政状況を踏まえ、今が学校を建て替えるチャンスならば建て替えを進めてほしい。
32	新しい校舎を建てるという事について、子どもにとっては楽しい事のはずなのに何故反対しているのか。両校が統合する事については問題ないのではないか。
33	新校舎の男子トイレは全室個室にしてほしい。
34	学校統合する際、複合施設を検討するならば不足している学習館や学童保育所などの公共施設を作ってほしい。現在の若葉会館では部屋数が足りません。また、現在のけやき台小学校では災害時の安全性に欠けているため、早く新校舎を建設してほしい。
35	統合方針が決まった経過が人の噂話でなく、行政からきちんとした形で聞けて良かった。
36	学校統合に向けて、両校の保護者が一緒に考え自由に意見が言える場がほしい。
37	子どもはたくさんの友達と触れ合える環境が大事だと思うので、学校統合に賛成である。
38	人間関係や通学距離について心配という意見があったが、子どもは対応できると思います。
39	学校統合により学力向上するようお願いしたい。
40	統合方針が決まった以上、スケジュール通り進めてほしい。
41	新校舎建設時にはエレベーターを設置するなどバリアフリー化を図ってほしい。

42	新校舎にはフリースペースをつくってほしい。
43	新校舎建設の際、学童保育所を併設し定員も増やしてほしい。
44	平成 28 年度に実施するけやき台小学校の改修では、トイレを快適に整備してほしい。
45	学校統合については決まっていると認識している。説明会では今後の具体的な話が聞きたかった。
46	子どもたちのために何が一番良いのか、目の前のことだけを考えて決めたものではなく、何十年も先のことも見据えて決定した方針だと思う。

2) 学校統合反対の立場の意見

番号	内容
47	方針は、子どもの教育について考えず、財源問題のみで決定したため反対です。また、ハード面のメリットが強調され、子どもたちの事が触れられていないと感じます。
48	一部の地域住民からの請願が市議会で採択されたことのみで、方針決定するのはおかしい。方針決定までに地域住民や保護者、子どもの意見を聞き合意形成を図るべきである。そもそも請願が出されたこと自体も知らない住民が多かった。
49	採択された請願を出された検討委員会がどのように住民の意見を吸い上げたか疑問であり、話し合われた際の議事録を公開すべきである。請願内容は住民の合意形成が図られていない。行政主導で最初から結論ありきではなかったのか疑問がある。
50	統合の請願が採択されてから、教育委員会は十分時間があつたにもかかわらず住民の意見を聞かずに方針を決定したのは納得できない。方針を決定してから説明会を開催するのはおかしい。
51	統合には反対。住民の合意形成が図られていないので方針は白紙に戻すべきである。このまま統合を進めれば若葉町が分断されてしまう。
52	けやき台小学校の建替えのために、若葉小学校を廃校するのはおかしい。公共施設保全計画に定められた通り、両校を大規模改修しそれぞれ建替えしてほしい。
53	けやき台小学校の校庭は狭いため、休み時間中児童のボール遊びが禁止されている。今回の統合によりさらに校庭で遊びにくくなり、児童の運動能力が下がる。

54	小規模校についてデメリットよりメリットが多い。大規模校のデメリットをきちんと伝えるべきだ。
55	反対署名が 7,000 筆以上で採択された請願の署名数よりも多いため、統合は中止すべきである。
56	統合に賛成か反対かを問うアンケートを実施してほしい。
57	五日市街道を横断する際の安全対策が決まっていないうちに、学校統合を進めるのはおかしい。数百人規模の児童が五日市街道及び商業施設近辺を渡って通学する学校は市内にはないはずだ。
58	将来の児童数推移の予測がおかしい。若葉町は今後一戸建てが増えて、児童数が増える可能性が高いのではないかな。
59	統合する一番の理由は、市の厳しい財政状況である。新校舎も第一小学校のような複合施設を作って、若葉町にある他の公共施設をなくしてしまうのではないかな。
60	少子高齢化や人口減少を理由に学校統合を進めるより、市は子育て世代を誘致する努力をすべきである。
61	児童数が増えてクラス数が増えると先生の目が届かずいじめやトラブルが増えると思います。小中学校で子どもの入れ替えがないのは問題がある。
62	若葉小学校が小規模校になったのは、そもそも教育委員会が安易に越境入学を認めたのが原因である。今になって小規模校を理由に若葉小学校を廃校にするのはおかしい。
63	学校の教員も説明会に出席してもらうべきである。
64	立川市は厳しい財政状況なのに、大規模改修よりもお金がかかる新校舎建設を進めるのはおかしい。
65	若葉小学校が廃校になると、その校庭や体育館で活動していたスポーツクラブが活動できなくなる。
66	説明会を開催し住民の合意形成を図ることなので、計画は合意形成がなされた上で進めてもらいたい。
67	地域説明会は 4 回では不足。合意形成が図れるまで継続してほしい。
68	4 回の説明会終了後、地域の検討委員会を設置しワークショップのような対話方式で意見を交わす場を設けてほしい。
69	地域説明会に市長や文教委員、教育委員も参加し、経緯や反対署名を不採択した理由等を説明してほしい。今回の統合及び建替えの請願を市議会に提出した請願者にも説明してもらいたい。
70	小学校は地域の大事な思い出の場なので廃校しないでほしい。ヨーロッパなど世界の流れは小規模校です。
71	児童推移の推計からすれば若葉町に小学校が 2 つ必要だと思う。

72	けやき台小学校の建て替えには賛成だが、若葉小学校が統合されてなくなることは話が別である。請願を出した検討委員会の中でも考え方に違いがあり地域住民の総意とは言えない。
73	今回の説明会で終わりにするのではなく出発点として欲しい。
74	小学校の統廃合は大事な問題で住民の合意なしでは行ってはいけないと思う。説明会で出された疑問や意見を踏まえて、決めた方針でも再検討すべきである。
75	統合方針は国の方針に沿って進めているだけで、子どもを第一に考えていない。
76	市は人口増加するような施策を立てるべきなのに、人口減少ばかり説明するのはおかしい。
77	けやき台小学校の建替えのために、若葉小学校を廃校するのはおかしい。けやき台小学校だけを建替えればよい。
78	財源の話をすれば、「公共施設保全計画」は全部見直す必要があるのではないかと。若葉小学校だけを廃校するのはおかしい。
79	反対派の意見をきちんと広報などで伝えてほしい。一戸一戸訪問するなどして市民に知らせるべきだ。
80	学校統合により、若葉小学校区域から通う児童の通学距離が長くなり、特に低学年の児童は大変になってしまう。
81	年少者人口推計については、コーホート要因法の移動率について立川市の数値を使用しているが、若葉町の人口推計を予測するためには若葉町の移動率を使うべきだと思います。
82	高齢者が増えるので市の財政が厳しいとの説明があったが、財政については市が工夫すべき問題で、市の無策を理由に学校を統合するのは納得がいかない。
83	今回の統合計画の中で、特別支援学級等の移転に係る議論が十分なされていない印象を受けている。統合せずにけやき台小学校を建替えてほしい。

3) その他の意見

番号	内容
84	五日市街道を横断する際の児童の安全確保のため押しボタン式の横断歩道設置や警察のパトロールを要請するなど最善の方法を検討してほしい。
85	五日市街道だけでなく、今後東大和市と小平市とつながる「けやき通り」の対応も考えてほしい。
86	若葉小学校跡地は今後の少子高齢化社会を見据えて高齢者と子どもが一緒にいられる場所づくりをしてほしい。
87	住民の合意形成を図るため、ワークショップのような対話方式の会を開催した方がよい。
88	若葉小学校の跡地もあるが、隣接する清掃工場跡地はどうなるのか。それらを含めて説明会を開催してほしい。
89	建替え場所がけやき台小学校の敷地であることが問題である。昔はけやき台小学校の敷地の一部は釣堀だったうえ国分寺崖線の上で地盤が緩い。
90	若葉小学校は現在単学級で具体的に問題が生じているのか。
91	中学校は今後選択制になりますか。
92	若葉小学校に子どもたちを通わせようと引越してきたのに残念。もっと早く情報を流してほしかった。
93	説明会では举手した人の質問をすべて受けるべきである。時間で制約するのは参加者に失礼である。
94	地域説明会で議事録をとっていないのは驚いた。住民の声をきちんと聞いてほしい。
95	統廃合に関する児童の精神面のフォローについて、家庭でもするが学校でも配慮してほしい。
96	説明会開催にあたっては、冷暖房が完備しているなど参加者の快適性を考えて会場を設定してほしい。プロジェクターの資料も文字が小さくて見えなかった。
97	説明会では保育のサービスがほしかった。
98	けやき台小学校、若葉小学校に入学を予定している未就学児の保護者を対象とした説明会を今後開催してほしい。
99	建替え場所は今後の小中連携を見据えて第九中学校の隣がよい。
100	統合により特別支援学級が今後どうなるのか詳細を説明してほしい。
101	学校統合を進めるうえで賛成派と反対派が二極化しないよう努めてほしい。PTA活動等が陰悪な雰囲気の中で行われるのは困ります。
102	当事者の保護者や子どもにアンケートをとってほしい。